

小型風力発電機メーカー エコエネルギーを創造する

**A-WING NEWS**

日本と各国の架け橋に



**A-WING**

2012年11月27日発行

### マグサイサイ賞 受賞のトゥリ・ムンプニ氏との約束

トゥリ・ムンプニ氏は、1990年から小水力発電事業を貧困層の住環境を改善するプログラムに参画！夫であるエンジニアのイスカンダル・コントアジ氏らとともにNGO「人間中心のビジネス・経済研究所」IBEKA法人を設立人里離れた農山村を回り始め、簡潔な小水力発電システム構築を確立。川の水をくみ上げ、水を川に戻す途中に小水力発電機を設置して電気を作る。それほど費用もかからず、かなりの効果が期待でき、水の量も減らず、環境破壊することもなく、利便性の高いシステムである。これまでに電気を通した村は六十余に及び、夜間に工芸品を作って副収入を得られるようになり、子どもは勉強する時間も増えたという。90年代に原発の建設計画が浮上、紆余曲折を経て、稼働する予定になっていた同国では東日本大震災事故後、インドネシア・ユドヨノ大統領が計画を見直す方針を示した。トゥリ・ムンプニ氏も「原発は生活を豊かにしてくれるかもしれないが、子どもや孫のことまで考えるとどうなのか？利益とリスクを比べれば、どうすればいいか分かる」と唱えている。現在ではIBEKA法人のスタッフも増え、フィリピンとルワンダでも手法を学んだ現地の住民が、水力発電事業を実施するようになっている。



インドネシアでは約1億人が電気のない生活を送っている。夜は闇に包まれる奥地の村に、光を届けて約20年。奥地での活動は危険を伴い、3年前には身代金目的で元ゲリラに誘拐されたこともあったという。導入前に村に数ヶ月入り、村人が「自分たちの発電所」と意識を持つまでとことん話し合い、5年も要した村もある。維持管理・修繕ができるような村人の訓練、資金調達をして設備を完備し、施設は協同組合方式で運営していく。トゥリ・ムンプニ氏は、今後10年でさらに1千万人に電気を届ける計画である。A-WINGとIBEKA法人はこれからアライアンスを組んで、無電化地域に電気を普及していくよう活動していきます。風力と小水力発電でできた電気で、明かりを灯し、勉学に励み、また新たな発想が生まれていく。パソコンや携帯を充電させ、政府の情報が察知でき、より新しい情報が入手し、地域全体として活性化につながり、新たな行動が生まれる。村全体の産業を増やし、雇用を増やし、ストックした電気を、基金として積み立て、地域に還元できる仕組みづくりをしていきます。A-WINGの本分である電気のないところに電気を届けることにより、子ども達がより勉学に励み、新たな仕組みづくりに役立てることが出来ます。A-WINGとIBEKA法人は風力と小水力発電機届けることを通して、サステナブルな生活を作り出し、イノベーションできる社会を考えます。

お問い合わせは下記連絡先までお願い致します

【お問い合わせ】

〒830-0018 福岡県久留米市通町6-23 栄電舎ビル2F

A-WING 株式会社 中村 祐基

E-mail: yuuki.awing@gmail.com

TEL : 0942-65-8847 FAX 0942-65-8857

Web : <http://www.awing-i.com>

発行人 中村祐基



ハイブリット街路灯